

2014/11

西区 在宅医療相談室 調査報告書

～市内初から全区(18区)展開へ～



作成：横浜の未来を結ぶ会

横浜市議員 大岩まさかず

写真：西区在宅医療相談室 入口看板

【視察】西区 在宅医療相談室（在宅医療連携拠点）

11月14日（金） 14：00～15：30

超高齢化が今後ますます進む中、医療ニーズの高い患者さんが、退院後に在宅療養生活へスムーズに移行する為には、病院とかかりつけ医を結びつけ、医療・介護事業者間のコーディネート役となる「在宅医療連携拠点」が必要です。

横浜市では、医師会と協働して、在宅医療を担う医師への支援や、在宅介護を担うケアマネージャーなどに対する医療的支援を実施する「在宅医療連携拠点（＝在宅医療相談室）」を平成25年11月から、横浜市西区医師会立訪問介護ステーション（医師会館内）に開設しました。

人口9万人の西区でモデル事業として始まった同事業は、今後順次全区（18区）に整備を進めていく予定です。今回は同事業を視察しました。

1 西区 在宅医療相談室の概略

名称	西区在宅医療相談室（在宅医療連携拠点）
営業日	月～金曜日（祝日を除く） 9：00～17：00
場所	西区医師会館内（西区中央1-15-18）
業務内容	（１） 相談・支援業務 ○退院時支援（かかりつけ医の紹介等） ○地域包括支援センター、ケアマネージャー等からの相談・支援 ○情報支援（訪問看護や訪問リハビリの空き状況の情報提供等） （２） 医療連携・多職種連携業務 ○かかりつけ医同士でカバーし合える仕組みづくり ○在宅患者急変時の受入病院の確保 ○かかりつけ医の在宅医療研修の企画・実施 （３） 市民啓発業務

● 職員体制

介護支援専門員の資格を有する看護師等 2名
(医師会医師の支援あり)

● 事業形態

横浜市の事業委託 (西区医師会へ)



● 参考（西区の高齢化の状況）

横浜市西区

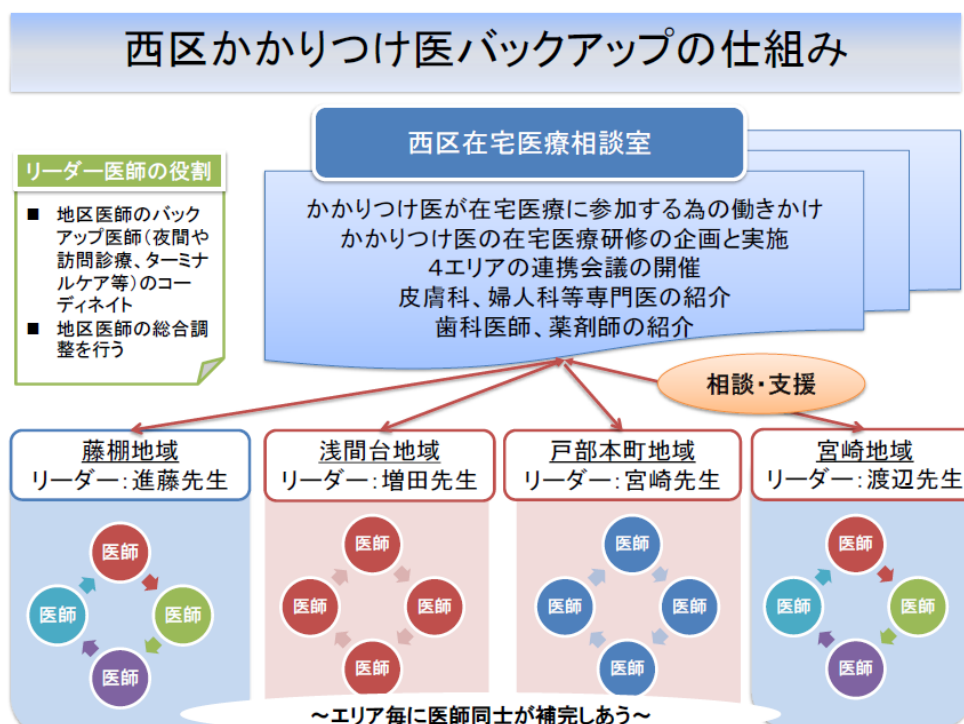
- ・人口 96,826 人
- (65 歳以上 18.9%)
- (75 歳以上 9.4%)

横浜市全体

- ・人口 3,697,035 人
- (65 歳以上 21.3%)
- (75 歳以上 9.8%)

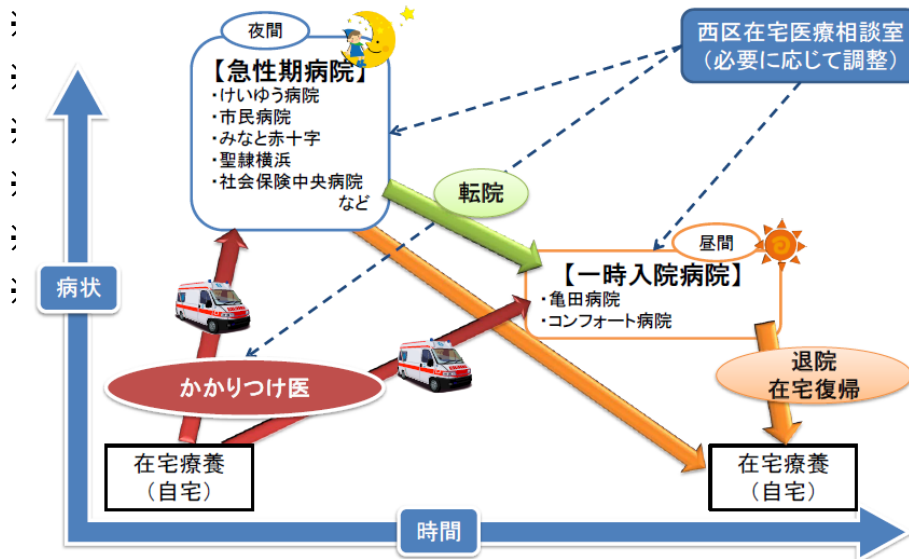
※25 年 1 月 1 日現在

2 バックアップの仕組み、医療機関連携



- 西区内 4 つの地域ケアプラザ（藤棚、浅間台、戸部本町、宮崎）を、中核（在宅医療包括支援センター）として、エリア毎に医師同士が補完しあう仕組みを構築しています。
- 当初 28 名でスタート。現在は +7 名の 35 名の医師で運営しています。

在宅患者急変時の医療機関連携



- 昼間の一次入院病院と夜間の急性期病院、かかりつけ医を、必要に応じて調整し、在宅療養急変時のバックアップペットを確保する役割を、在宅医療相談室が担っている。

3 横浜市の在宅医療を取り巻く背景

	2013 年	2025 年	増加率
総人口	3,697 千人	3,718 千人	
高齢者人口 (75 歳以上)	364 千人	586 千人	1.6 倍
在宅医療対象者数 (1 日あたり)	2,800 人／日	5,600 日／日	2 倍
病院数	134	－	
一般診療所	2,924	－	

- 2025 年には高齢者の数が、現在の 1.6 倍、1 日あたりの在宅医療対象者の数が 2 倍になる事が見込まれるが、在宅医療の支援拠点がニーズに合う分だけふやせるかが、鍵となる

在宅療養支援施設の数 (2013 年)

→ 支援病院：26、支援診療所：331、訪問介護ステーション：227

4 事業実績

① 相談・支援業務

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
相談件数	—	—	126	74	40	44	50	61	65	24	60	77	621
新規 相談者数	27	19	25	15	19	13	10	12	24	8	21	17	210
病院	3	8	10	3	6	5	4	2	9	5	4	6	65
包括C	6	2	7	4	2	2	2	5	7	0	7	6	50
ケアマネ	6	1	2	5	4	1	2	3	4	2	8	2	40
医師	7	2	4	2	4	1	0	1	1	0	2	0	24
その他	5	6	2	1	3	4	2	1	3	1	0	3	31

相談の主な内容（計：1,050件）※1件の相談で複数の相談あり

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
退院調整	—	—	27	13	8	9	20	5	16	3	15	16	132
かかりつけ医・ 往診医の紹介	—	—	42	30	23	18	19	25	27	13	38	33	268
バックアップ システム関係	—	—	3	1	3	2	0	4	0	3	1	4	21
医療資源	—	—	11	16	13	12	12	7	8	7	5	18	109
訪問看護	—	—	24	26	12	19	15	22	22	6	24	21	191
ケアマネジャー	—	—	17	16	6	11	16	30	12	8	7	3	126
介護サービス	—	—	19	7	7	5	14	15	7	3	7	8	92
その他	—	—	40	20	6	7	2	10	6	3	4	13	111

- 相談の主な内容は、1位「かかりつけ医・往診医の紹介」、2位「訪問介護」、3位「退院調整」の順になっている。連携拠点開設後、着実に相談の実績を積み重ねている。

② 医療連携・多職種連携業務

ア 医療連携（かかりつけ医が新たに訪問診療を行う際の支援）

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
人数	1	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	7

3月 かかりつけ医のバックアップシステム連絡会 1回開催 14人参加

イ 緊急一時入院

12月：亀田病院 1件、2月：コンフォート病院 1件、6月：亀田病院 1件

7月 亀田病院 3件、10月 コンフォート病院 1件 計 7件

ウ 多職種連携・事例検討会

14回開催、239人参加

	月	日	地区	参加者数(計)
事例検討会	11月	25日（同日2回開催）	浅間台	30
	12月	16日、17日	戸部、宮崎	29
	2月	17日	浅間台	20
	3月	10日	藤棚	15
	5月	15日	宮崎	6
	6月	16日、23日	宮崎、浅間台	41
	7月	31日	藤棚	9
	9月	24日	全地区	9
	10月	8日	全地区	38
多職種 連携会議	3月	11日	全地区	20
	7月	8日	全地区	22

エ かかりつけ医の在宅医療研修

1回開催、37人参加

2月22日 西区における在宅医療について

（西区医師会学術講演会総会の中で開催）

③ 市民啓発業務(西区向け)

3/15	民生委員を対象とした講演会「在宅医療って何？」	94 人参加
10/5	シニアクラブを対象とした在宅医療介護研修会	82 人参加
10/30	民生委員を対象講演会「在宅医療の現状を知ろう！」	91 人参加
11/2	区民祭りでの相談ブース設置による P R	350 人来所

5 在宅医療連携拠点の今後の 18 区への展開

- 西区は平成 25 年 11 月に開設済み

- 平成 27 年 1 月に 10 区で開設

西区、鶴見区、南区、青葉区、瀬谷区、旭区、緑区、金沢区
港北区、中区、都筑区の計 10 区

- 4 区は平成 27 年度に開設予定（平成 27 年第 1 回定例会で予算審議中）

神奈川区、港南区、保土ケ谷区、磯子区

- 残り 3 区は平成 29 年度までに開設予定（中期経営計画に記載）

戸塚区、栄区、泉区

※ 平成 27 年度には、介護保険の地域支援事業と位置づけられ、国・県・市・保険料で構成される、より安定した財源が確保される予定です。

6 質疑応答

Q 現状の課題は？

A 課題は、大きく以下の2つです。

● 課題 1

医療行為を行う「かかりつけ医」と、介護系のケアマネージャーとの連携をいかにしてとっていくかが大きな課題である。特に介護系のケアマネージャーにとって、医療行為に対する壁（※1）が高く、現場レベルの連携が進みにくい状況を改善し、両者の橋渡しをスムーズにしていく事が鍵となります。

※ 1 医療行為に対する壁（例）

- 外来の対応で忙しいお医者さんに、介護側から連絡が取りづらい
- 医療行為の簡単な専門的事項でも、お医者さんに聞きづらい

● 課題 2

在宅医療のニーズの高まりに比して、医療行為を行う「かかりつけ医」、特に訪問診療をして頂くお医者さんの数が圧倒的に少ない。夜間対応を含め、24Hの対応が必要なるケースもあり、お医者さんの負担が大きい。一人の「かかりつけ医」だけに頼らない、チーム対応による、バックアップシステムの構築が鍵となる。

医師会では、お医者さんのネットワークを組み、一部の役割でも参加できる仕組みや、訪問医との同行訪問など、医師の方の参加の壁を低くする取組みをすすめている。



横浜市の健康福祉局医療政策課からヒアリング



西区の在宅医療相談室は、訪問介護ステーション内に



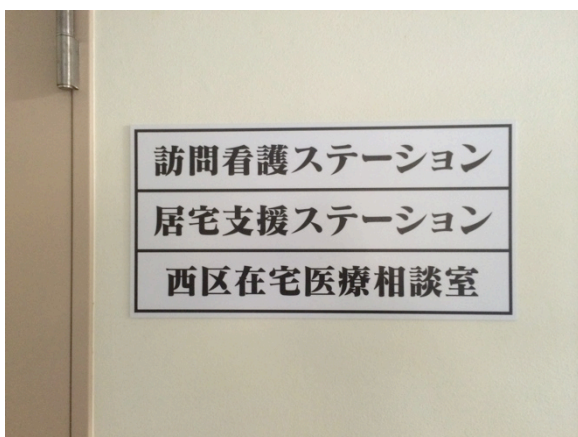
事務所内の様子



ホワイトボードで、見える化を



打合せスペース



医師会の施設の中に、3つの拠点が同居
連携強化が図られている